

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	彦島中学校区家庭教育支援チーム (呼称:ひこしま)
②活動拠点	下関市立彦島中学校、下関市立江浦小学校、下関市立角倉小学校 下関市立向井小学校
③活動範囲	同上(彦島中校区)
④組織体制	<u>29 人</u> 彦島中学校PTA会長及び役員が3名、各校よりPTA会長を含む役員が2名～5名程度、各校のおやじの会やおやじの会に類する団体の代表、各 学校長(顧問)、学識経験者 1 名(顧問)、彦島中校区民生児童委員協議 会、下関市スクールソーシャルワーカー、PTAOBで構成
⑤活動開始年度	平成30年度(2019年度)
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 下関市教育委員会教育部生涯学習課 (TEL)083-231-7968 (E-mail) kishogai@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	☒ 保護者等への学びの場の提供 ☒ 保護者等への地域の居場所づくり ☐ アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) L ☐自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☐保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☐その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☐ その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	☒ 乳幼児 ☒ 小学生(低学年) ☒ 小学生(中学年) ☒ 小学生(高学年) ☒ 中学生 ☐ 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

③活動内容	【具体的な活動内容】 就学前検診時における子育てサロン 小学校入学前の保護者の不安解消のため、就学前検診時にサロンを開催。子供の家庭生活や学習、PTAの活動のことなどの質問があり、先輩保護者が回答することで、保護者としての心構えが共有されるとともに、保護者同士のつながりも深められている。 高校説明会 彦島中において生徒とその保護者、また校区内の小学校保護者希望者を対象に、市内高等学校の担当者に来校してもらい、各校の特色や求める生徒像などを説明してもらう機会を設けている。 中学校区内のPTA等協働での地域行事への参画 夏祭りなどでは生徒有志による出店を企画から当日の運営までを一緒に考えるところから実践している。それに加えて児童とPTAでの出店もあるなど、子どもたちの活躍の機会が増え、保護者同士の交流も多く見られるようになった。 新しい取り組み ・ 年度初めには代表者で当年の活動について確認し、決定するようにしている。（活動への自主性を保つため） ・ 島根県益田市の取り組みを参考に、学校と連携したこどもとおとなの対話の場を設定を模索している。令和8年度に開催予定。
④活動の成果 （活動実績がある場合）	就学前健診時における子育てサロン 校区内の小学校3校の内2校は就学前検診が合同となったため実施ができなくなったが、今後の実施方法を模索中。実施を継続できている1校については、例年就学前の保護者からも好評。 高校説明会 過去2年、年度初めに実施し、受験について考える機会が早まること、親子での受験や進路についての会話が增える機会作りに繋がっている印象。 中学校区内のPTA等協働での地域行事への参画 令和5年から開始し、当年の生徒が地域の夏祭りや運動会で運営に大きく貢献する機会となっており、自治会をはじめとする地域住民から生徒を見る目が大きく変わってきており、「中学生なしにはあり得ない」といった声が聞かれるほどになっている。 生徒が活躍する姿を見ていた児童が、中学校入学し今度は活躍する側になるなど、生徒の頑張りが幼児や児童にとって良いモデルとなっている様子も

	伺える。生徒の活動を支えることを通して、保護者同士の関わりの必然性も生まれ、よい循環となっている。 継続的な家庭教育支援体制の構築 「低負担で大成果」を重視しているが、活動が活発になる分、構成員の時間的な負担は増している。「どれだけその活動に意義が感じられるか」が活動継続の肝となることから、新しい取り組みを模索し、目に見える成果が得られることが必須と感じている。
⑤活動財源 (複数チェック可能)	☐ 文部科学省補助事業(事業名:) ☐ 文部科学省委託事業(事業名:) ☐ 厚生労働省事業(事業名:) ☐ 地方公共団体単独事業として実施 ☒ 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施) ☐ その他の支援により活動を実施 ()